繁忙期120日間の逆算発注スケジュール

ESTROUTE ・自社の納期に合わせて調整のうえ使用（第1版）

越境調達は突発対応ができません。入荷期限から逆算して計画するしかありません。各マイルストーンに担当者と完了日を決めておくことが、どんなリマインダーより有効です。記載の日数は目安の幅であり、繁忙期には余裕を上乗せしてください。

1. 逆算スケジュールのマイルストーン

時期	完了しておくこと	目安日数	短縮可否	担当・期限
120日前	品揃え確定、売上予測、予算承認	2〜3週間	可能だが品選びを誤りやすい	
100日前	引き合い、価格比較、サンプル作成	2〜4週間	一部短縮可	
85日前	サンプル承認、契約、支払	1週間	短縮しないほうがよい	
60日前	量産	3〜5週間	ほぼ短縮不可	
40日前	出荷前検査と手直し	3〜7日	短縮不可	
30日前	スペース確保と船積み	1週間	繁忙期は前倒しで確定	
10日前	入港、通関、国内輸送	1〜2週間	書類不足で長期化する	
当日	入荷、店頭陳列	2〜3日	—	

2. 短縮できない3つの工程

量産期間、検査と手直しの時間、通関書類の準備。1つ目を削ると品質が落ち、2つ目を削ると不良品が市場に出て、3つ目を削ると滞船と保管料が発生します。

3. 期を逃した場合の4つの選択肢

航空便での追加補充（コスト増、販売期は確保）／分割入荷（売れ筋から先行投入）／現地卸からの補充（粗利を犠牲にして棚を維持）／欠品を受け入れて経営資源を集中。最悪なのは、欠品が起きてから選択肢が最後の1つしか残っていないと気づくことです。

本資料は ESTROUTE が越境調達の自己点検および仕入先との意思疎通のために作成したものです。表は自由にコピー・改変し、発注時に添付していただけます。貴社の品目に合わせた版が必要な場合は sales@orientalroute.com までご連絡ください | estroute.com